

# ICT通信

暖かくなってきましたが、すっきりしない天気が続いています。

新生活が始まり体調管理に苦労されている方も多いのではないのでしょうか？

昨年度、感染管理の中ではエボラウィルス・デング熱をはじめおおくの感染症が騒がれていました。

静岡県内においても、夏祭りでの食中毒集団発生・インフルエンザの院内発生などがありました。

身近なところでもこれだけの事例があり、病院内はもちろん、日常生活の中でも感染対策の重要性を再認識する機会となったのではないのでしょうか？

皆さんは、これらの感染症に対して病院ではどのような対応をしているか知っていますか？

今回の ICT 通信では、これらの感染症に対する感染対策の基本である「標準予防策」について話をしていきたいとおもいます。

標準予防策とは、対象は、血液・体液（汗を除く）・粘膜・損傷した皮膚などであり（湿生生体物質という）これらのものは感染のリスクがあるものとして扱い、状況に応じた防護用具の着用、手指衛生の実施を行っていくというものです。

では、家庭でできることはないのでしょうか？標準予防策というと固いイメージがありますが、簡単に言うと汚染を広げないこと、手洗い・咳エチケットをしっかりとするという事です。その中でも手を洗うタイミングはとても重要です、食事を食べる前、家に帰ってきたとき、トイレの後などにしっかり行うことが大切です。

自分自身が感染しないこと、感染源にならないことが感染の拡大を防ぐためにはとても大切なことです。

一人一人が予防策を正しく行い感染拡大を防いでいく…口に出すと簡単な事のように聞こえますが、関わる人数が増えるほど難しいこととなります。成功させるには日々の啓蒙と情報の共有が重要な鍵となります。